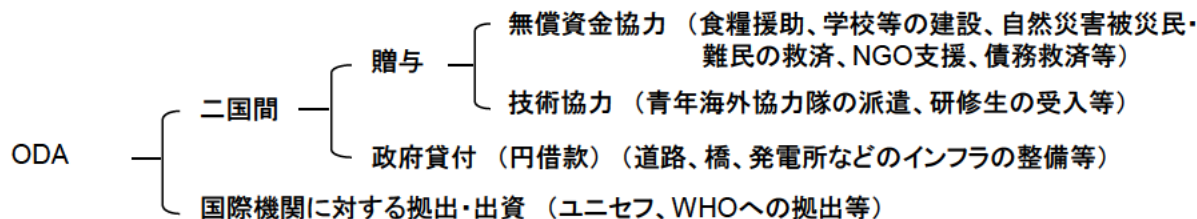


# 各論6. ODA

## (1) ODAの現状

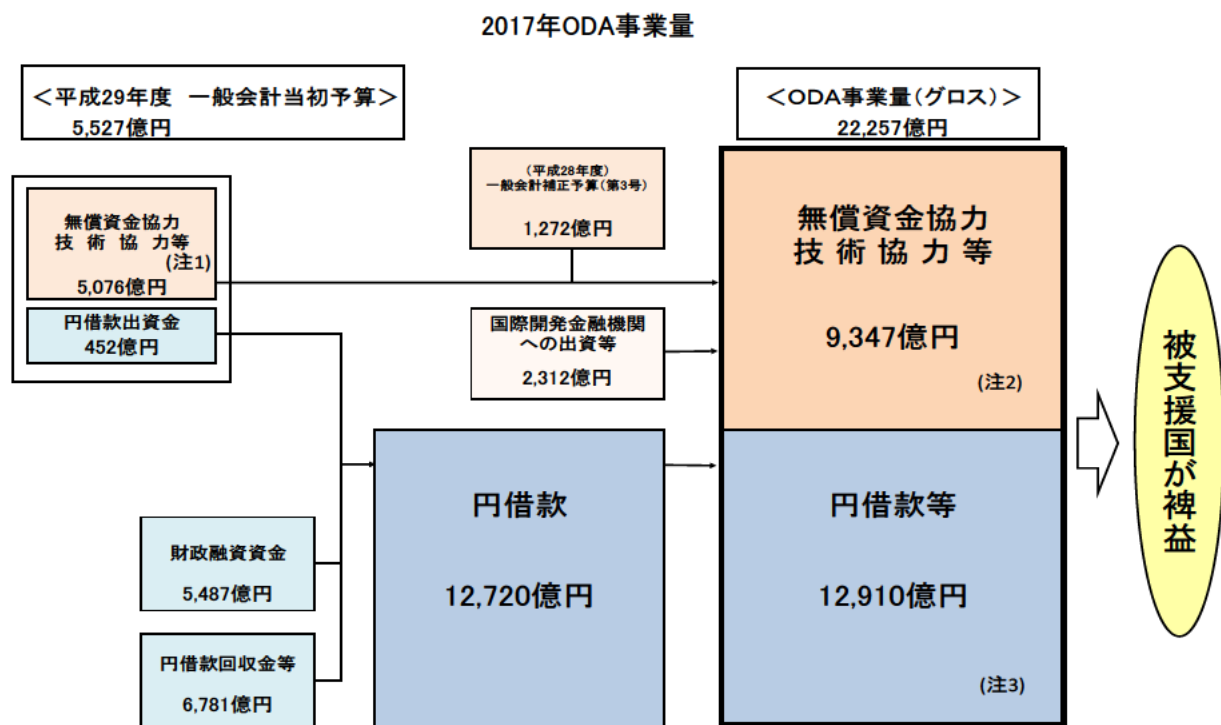
### ①政府開発援助(ODA)の定義

ODAは、開発途上国に対する二国間贈与(無償資金協力・技術協力)や政府貸付(円借款)のほか、国際機関に対する拠出・出資等から成り立っています。具体的には、日本政府やJICA(国際協力機構)などが行う環境問題対策支援、食糧援助、道路や橋などのインフラ整備など、資金・技術面での協力です。



### ②ODA予算の構成

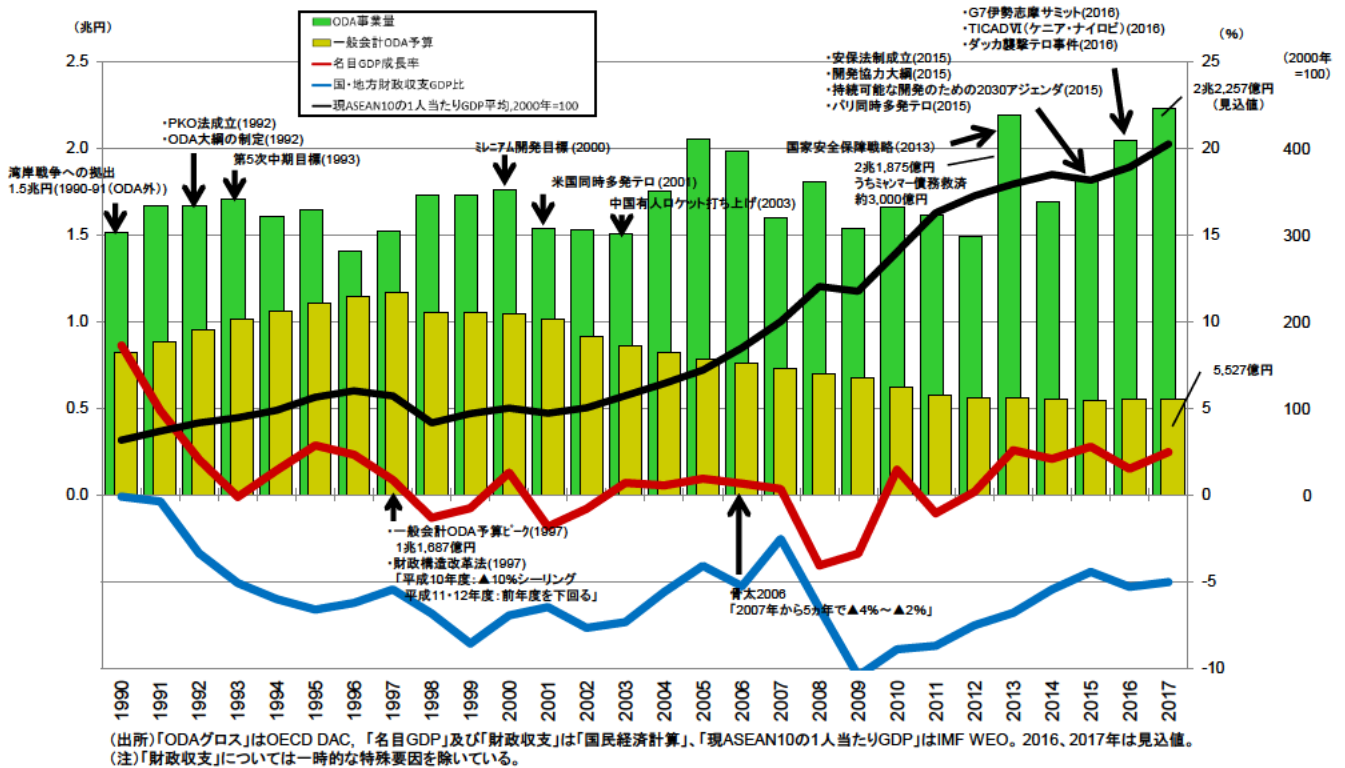
ODA予算は、一般会計当初予算に加え、補正予算、円借款、国際機関への出資等から構成されています。



(注1) 債務救済16億円を含む。  
(注2) 特別会計を通じた技術協力等703億円を含む。一般会計の債務救済(16億円)を除く。  
(注3) 海外漁業協力財団を通じた借款190億円を含む。

### ③ODAの規模と経済・財政

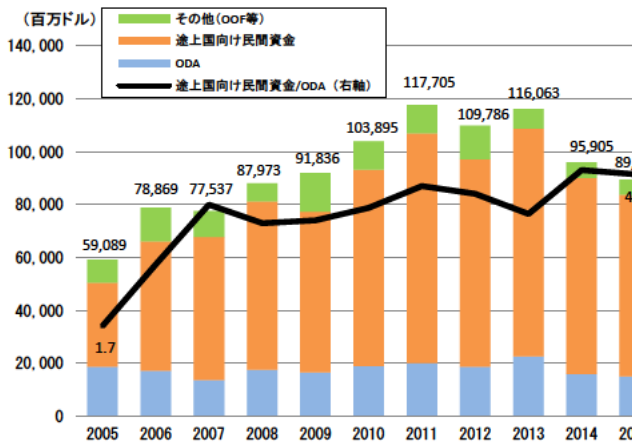
ODA予算は平成9年度をピークに減少してきましたが、事業量については必要な水準を確保してきました。ODAの貢献も一助としてASEAN諸国の経済は順調に成長しています。



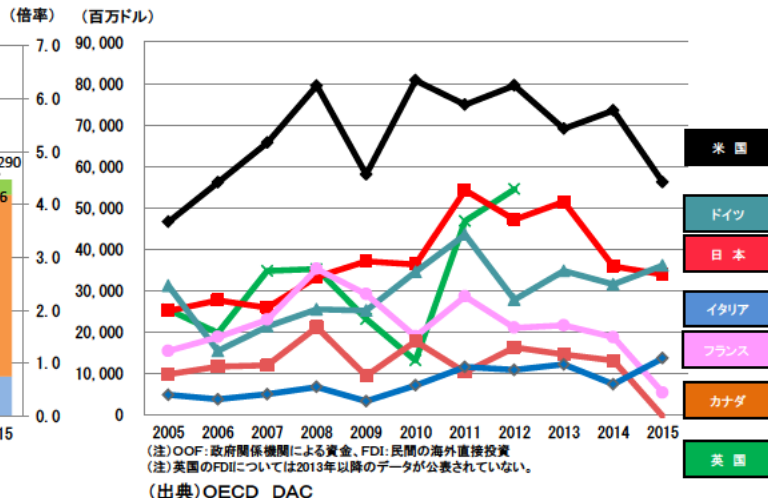
### (2) ODAの戦略的・効率的活用に向けた取り組み

日本からは、ODAの5倍程度の民間資金が途上国に流入しており、ODAだけでなくOOF及び民間資金を含めれば、日本はトップクラスの資金規模となっています。

＜日本の途上国向け資金(グロス)の推移＞



＜ODA, OOF, FDIの合計額の国際比較(ネット)＞



### ＜財政制度等審議会「平成29年度予算の編成等に関する建議(平成28年11月17日)」＞

開発途上国の経済発展への我が国の貢献を評価するに当たっては、一般会計のODA予算額のみならず、円借款も含めたODAの事業規模や、OOF、そして、とりわけ民間資金に着目すべき状況となっている。